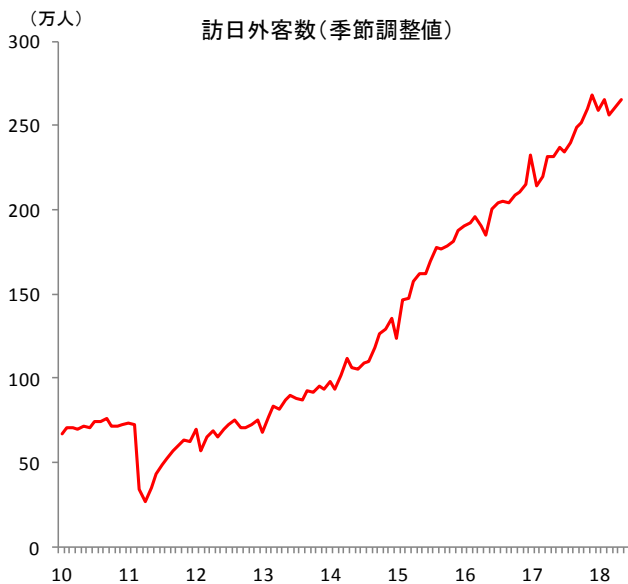


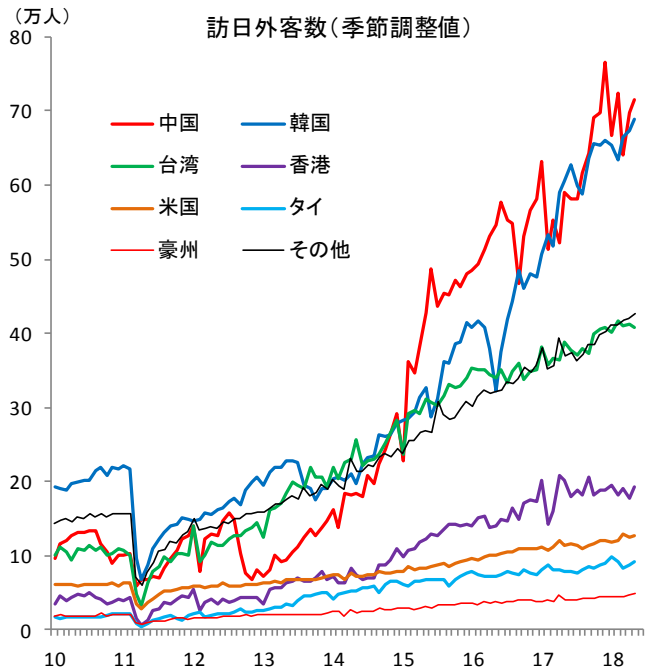
指標名: 訪日外客数(2018年5月)
～高水準も、増勢は鈍化～

発表日: 2018年6月20日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL: 03-5221-4528



(出所) 日本政府観光局「訪日外客数」
(注) 季節調整は第一生命経済研究所



(出所) 日本政府観光局「訪日外客数」
(注) 季節調整は第一生命経済研究所

○年間3000万人突破の可能性大

日本政府観光局(JNTO)から発表された5月の訪日外客数は267万5千人、前年比+16.6%となった。5月としては過去最高である。JNTOは、「航空路線の新規就航や増便、チャーター便の就航による航空座席供給量の増加や、好調なクルーズ需要に加え、継続的に展開している訪日旅行プロモーションの効果も相まって、訪日外客数全体としては堅調に推移した。」としている。

なお、1～5月累計でみると1319万4400人となり、昨年同時期を15.6%上回っている。足元5月の水準で6月以降も推移すると仮定すれば、2018年(暦年)では3100～3200万人となる(2017年:2869万人)。年間3000万人突破の可能性は高いだろう。アベノミクス開始初期の2013年が1036万人だったため、わずか5年で訪日外客数は3倍に増えたことになる。また、政府は2020年に4000万人という目標を掲げている。ハードルは高いものの、2020年にはオリンピックが開催されることを踏まえると、達成の可能性も十分あるだろう。

○18年入り後、増勢が鈍化

このように高水準の推移が続いている訪日外客数だが、18年に入ってから増勢がやや鈍っていることには注意が必要である。季節調整値(筆者試算)でみると、1-3月期は前期比+0.1%とほぼ横ばい、4-5月平均の値も1-3月期を1.1%Pt上回るにとどまっている。17年は年率+20%ペースで増えていたことを考えると、増勢の鈍化は否めない。特に、最大のシェアを占める中国からの訪日客数で頭打ち感が出ていること

が目立っている。17年後半にかなりのペースで増加した反動が出た可能性があるほか、17年後半と比べて18年は為替レートが円高で推移していたことが影響している可能性もあるだろう。アジア諸国の所得拡大に伴う観光需要増や、我が国のインバウンド需要取り込みに向けた対応等を背景として訪日外客数はこの先も増加を続けて行く可能性が高いと予想しているが、今後の動きには注意しておきたい。

なお、目先の訪日外客数の下押しとなることが懸念されるのが、先日発生した地震の影響である。2016年4月に発生した熊本地震のケースでは、韓国からの旅行者を中心として16年4、5月に落ち込みがみられた。また、訪日客の消費動向を示す「非居住者家計の国内での直接購入」は、当時進行していた円高も相まって16年4-6月期に実質・前期比で▲10.1%と大きく落ち込み、GDPベースの実質輸出を0.4%Pt押し下げた。関西は外国人観光客数が多いことから、影響が大きくなる可能性も否定できないだろう。